

酒田市総合計画審議会 第2回産業交流部会 議事要旨

1. 日時

平成29年2月24日（金）13:30～14:40

2. 場所

酒田市役所第一委員会室

3. 出席者

【酒田市総合計画審議会委員 産業部会委員】

所 属	氏 名	備 考
酒田商工会議副会頭	吉川 哲央	部会長
酒田ふれあい商工会会長	富樫 秀克	
山形県漁業協同組合指導課長	西村 盛	
連合山形酒田飽海地域協議会事務局長	阿部 秀徳	
公益社団法人酒田青年会議所 絆で繋げるまちづくり委員会副委員長	早坂 舞	
きらきらネットワーク倶楽部会長	村上 淳子	

【事務局】

農林水産部長（代理：農政課長）、水産林政調整監、商工観光部長、建設部長
企画振興部長、地方創生調整監兼政策推進課長、政策推進課

4. 議事内容

○事務局より会議の成立について報告

- ・本日の出席委員は6人であり委員定数9人の半数以上となっていることから、酒田市総合計画審議会条例施行規則第4条の規定により、本日の会議は有効である。

（1）総合計画審議会委員インタビューの概要（主な意見）について

- ・資料2に沿って事務局より説明

（2）新酒田市総合計画の策定について

- ・資料1に沿って事務局より説明

○新酒田市総合計画の策定についての質疑・意見等

(委員) これまではなかった個別のインタビューは良い取り組みだった。審議会、部会では話す時間が限られており、自分なりに取りまとめて話すことができたと思う。

(委員) 同じくインタビューは大変良かったと思う。資料「策定について」の内容は、従来よりもポイントが絞られて目的別という印象を受けた。これからのまとめ方が大事だが、全体的には良かった。

(委員) 総合計画の期間は10年とのことだったが、今の説明を聞くと前期5年で見直すということがはっきりした。また、まち・ひと・しごと創生総合戦略との関係が気になっていたが、これも位置付けがはっきりした点は良いかと思う。

(委員) インタビューの中で、会議ではなかなか話せないことも十分話すことができた。基本構想について、私自身未来会議に一度参加し、いろんな方と話をしたり聞いたりしたが、そこで市民の方から出た言葉、声が盛り込まれているのは良い。

(委員) インタビューは良い取り組み。ただ、インタビューの内容をまとめてこれから計画を作っていくことになると思うが、事務方に専門的な見地を持つ人を置くべきと感じた。現場に精通していない職員に話をしても、計画を作るうえで中身の濃いものにならないと思うので考えていただきたい。

⇒ インタビューに伺ったのは政策推進課の職員が中心で、各職場からプロジェクトチーム職員も入ったが、全ての場面には回答できない部分もあったかもしれない。内容は所管部署に伝え、計画に盛り込む際は整理をしていきたい。

(委員) 一例を挙げると、飛島の生活と漁業及び漁協は密着しており、漁協のこともわかる、島民の生活のこともわかる、コミュニティのこともわかる、これらを密にしていけば、計画を作るにあたって漁協の意見も吸い上がっている、島民の意見も吸い上がっている、となる。コミュニケーションを良くしていけばできると思う。

(委員) 未来会議やインタビューなどで多くの市民の話を聞いており、わかりやすいと感じた。

(委員) 「具体的な目指すまちの姿」等についてはどうか。

(委員) 若い人が大都市に出て行くのを止めるということをもう少し明確にして力を入れてほしい。酒田まつりの実行委員会にも出させてもらう機会があるが、今、酒田市と遊佐町では酒田まつりの日を休みにしようという動きがある。私自身子どもが二人いるが、どちらも酒田まつりに出ることなく、高校を卒業し大都市に進学して、そのままそこで就職して帰ってこない。具体的な目指すまちの姿に流出を防ぐ施策も入れてほしい。

(委員) 第2章に「夢があり儲かる農業にする」とある。私も子ども二人が県外に出て行った。親として夢があり儲かる農業をできなかったのが悔められないという自責の念があり、本人に自由に選ばせた結果ではある。TPPは先が見えない状況だが、農業だけががんばっても、地産地消だけでは限られている。大規模に営農して、直売もして儲かっている方もいるがごく一部である。今60歳から70歳くらいが現役農業の中心だが、作れば売れる物を作ることができれば、農業の後継者も増えると思う。農家が加工品を作るのは限界があるので、プロ

の方が向かったほうが道は短い。農商工連携をぜひすすめてほしい。農作物が先か、製品が先かという議論はあるが、これを作ってほしいという提案があれば農家は一所懸命作る。そのようなことも含め連携していきたい。

(委員) 商工会として興味深く聞いた。商工会の会員にも農業法人や団体が会員になってきているし、商工業者だけの課題でないということに留意して進めていきたい。また、新総合計画を策定するに当たり、どこの自治体に置き換えても通用するようなものにならないように、中身を見てこれは酒田市の計画だと言われるようなものにしたい。

(委員) 若者が地域に定着するにはどうしたらいいかは大きな課題。私自身東京に進学したが、地元に戻ってくるとき就職先がなかった。2年後に製造業に就職したが、その当時は製造業がたくさんあったのでそれが可能だった。今製造業はグローバル化でどんどん海外に出ており、儲かる部門だけ国内に残っている状況なので、当時と同じこともできなくなりつつある。しかし時代が変わってきており、地方にいても中央と同じレベルで情報が入手できる。地方であることのハンディキャップはそんなに小さくなってきていると思う。インタビューの中でも話をしたが、新しい産業をこの地で起こす取り組みができないかと思う。距離的には中央から離れているが、情報量についてはもはや遜色ないものが手に入る。そういった部分を行政で支援できれば、新しい芽に繋がって、県外に進学した子どもたちも酒田に戻りたいとなるのではないかと個人的には思っている。また、農業について、戦後は兼業農家を推奨して、家族経営の中で働く傍ら農業という形が続いてきた。今はその形が壊れてきていると思うが、専業農家だけで全ての耕作地をまかなえるかということとそうはいかないと思う。言い方はよくないかもしれないが、例えば趣味の延長線上のような農業も、可能性やチャンスがあるのではないかと。そのような方が週末産直に出するなどの取り組みができないか。こういったこともできれば耕作地も生きるのではないかと思う。

(委員) 私の子どもも首都圏に進学しそのまま帰ってこない。当時は就職氷河期で、地元就職先がなかなかなかったということがある。

(委員) 市まち・ひと・しごと創生総合戦略では2060年に人口7万人を切らないとうたっているが、人口について、新総合計画5年の中で数値目標を決めるのか。現在は10万5千人だが、私のような外からやって来た者から見ると、酒田市の人口は危機的状況だと思う。日本全体が減っているのではやむを得ないと思うが、人口を増やすような目標を立てないと維持すらできないと思う。2060年を目標にしても意味がないので、せめて5年先、10年先は今よりも人口を増やすというような取り組みが見える計画にしてほしい。ビジョン検討委員会もいいが、ビジョンを見るときれいな言葉ばかり並んでいる。総合計画にこんなことを載せるのか、くらいのインパクトのある計画にしてほしい。人口は減っていくと思うが、減る人数を想定するのではなく、少しでも維持する、なおかつ上昇することが見えるように、農業、漁業、企業誘致、既存企業への支援に全力で取り組んでもらいたい。

(委員) 酒田まつりの話があったが、青年会議所では酒田まつりを魅力的なものとし、まつりをおして子どもたちの郷土愛を育むため様々な活動を行っている。例えば山鉾を製作しているが、これを学校でも子どもたちと一緒に製作できないかと考えている。酒田の魅力を子

どもたちに伝えるような活動をしていきたい。市からも協力いただき、学校教育の中で、図工や道徳の時間でもいいので、酒田まつりに関した製作などを取り入れてほしい。

⇒ 人口を増やしていくということについて、まち・ひと・しごと創生総合戦略でもがんばってはいるが、総合計画も増やしたいという気持ちで作っていきたい。但し、実際のところ子どもを産める人の数がかなり減少している。相当数の移住者がいないと増えないという現状もわかっているので、人口は減るけれど暮らしやすいまちを作っていくのも大事だと思っている。増やしたいとは思いますが、人口を右肩上がりしていくのは総合計画としては困難。

(委員) 10万5千人を11万人、12万人に置き換えるのが無理であれば、維持できるような個別の項目を前面に出すということでもいいかと思う。人口増に繋がるような施策に積極的に取り組んでもらいたいということ。やはり企業誘致と既存企業への支援、農業などが活発になるということが人を集めるためには必須。働き口がないまちには魅力がない。人が減ると税収が減るが、それを豊かな暮らしというのは苦しいのでは。一人当たりのコストを充実させるということかもしれないが、企業が増えないと人は増えないということが前提にあると思う。きれいな言葉だけで終わるのではなく、しっかりと取り組まなければならない。

(委員) 県外で暮らす子ども達は、共稼ぎしながら子育てしている。孫の世話もしたいが、高齢の両親もおり現実的には困難。農業だけでなく、商業、工業振興が図られればいい。

(委員) やはり流出を防ぐことが大事。酒田まつりの日を休日にしたのは画期的だが、やはり働く場がないと戻れとは言えない。私自身飛島出身で長男だが、漁師を継がなかったのは、親にも企業への就職を勧められたということもある。高校卒業後、当時市が誘致した企業に就職したが、15年、20年経つと時代も変わって会社がなくなってしまった。常に企業を呼び続ける、また企業を留めるということをし続けなければならない。青年会議所は企業の社長や次期社長といった方々が多いと思うが、そのような方々は酒田をどうにかしないといけないということで活躍されているのだと思う。そういった一部の方だけではなくて、一般の市民が気概を持たないといけない。行政だけでなく、酒田市に住んでいる人が動かないと進んでいかないと思う。

(委員) ビジョン検討委員会が予定されているが、計画の内容を決める前にキャッチフレーズを決めるのか。

⇒ 基本構想は5月頃に決めたいと思っているが、ビジョン検討委員会では素案を作る。まとめる段階でビジョンを見直さなければならないこともあるかもしれないので、そこはフィードバックしながら、そこでまた検討していきたい。

(委員) 実際としてはそのようになると思う。具体化していくとキャッチフレーズが合わないということもあるかもしれない。

○連絡事項（事務局より）

- ・ビジョン検討委員会を3月中旬に開催する。

以 上